

2021 年度目標達成状況報告書（応用生物学部）

\*自己評価は「S・A・B・C」の4段階で「S：十分満たしている、A：満たしている、B：概ね満たしている、C：満たしていない」

No.	評価基準		
1	年度目標	(大目標) 一定の志願者層を保ちつつ、応用生物学部志願者数をV字回復させる。	
	年度末報告	学部の自己点検WGによる点検・評価	
		自己評価	C
		理由	志願者のV字回復は達成できなかった。しかし、微減程度であり、志願者層はほぼ昨年並みであった。
改善策	対面オープンキャンパスの開催や、直接高校生に響くメッセージを発信するなど、生の応用生物学部を見てもらえるよう広報活動を強化する。		
No.	評価基準		
2	年度目標	就職に強い応用生物学部をアピールするとともに、さらに強力で就職活動を支援する。	
	年度末報告	学部の自己点検WGによる点検・評価	
		自己評価	A
		理由	2月末時点での内定率が97%を超えており、目標の95%を達成した。
改善策	学生が希望ある優良企業への内定者数が増加するよう就職指導を強化する。3年生向けの就職指導としては、就職特任講師による特進クラス学生の個別指導を2月から開始し、就職の質の向上を目指す。就活予定学生全般に対しては、月曜5限に就職特任講師によるセミナーを開催し、就活意識の向上を目指すとともに、個別指導を実施する。		
No.	評価基準		
3	年度目標	応用生物学部の優れた研究をアピールする。	
	年度末報告	学部の自己点検WGによる点検・評価	
		自己評価	B
		理由	コロナ禍により、対面でのオープンキャンパスが実施されなかったため、高校生へのアピールが十分ではなかったと思われる。しかし、新規着任教員、若手教員の研究発信力が高く、研究力の向上が今後も期待できる。
改善策	高い研究力をアピール材料とし、高校生に興味を持ってもらうよう、広報活動を強化する。オープンキャンパスでは、研究室公開だけでなく、体験実験講座なども開催する。		

**【年度目標達成状況総括】**

「一定の志願者層を保ちつつ、応用生物学部志願者数をV字回復させる。」という大目標を掲げて、2021年度を活動してきたが、昨今の志願者状況を見ていると、目標設定を見直すことも考えられる。この2年間、一般入試（特に生命医薬専攻）の志願者が延び悩んだが、それは年内入試（総合型、学校推薦型）で十分な合格者が確保できなかったことによる。学校推薦型の推薦枠については、生命医薬品専攻に志願者増となる仕組みが必要であろう。また偏差値の低下を招かないよう、志願者数の増加につながる施策を実行する。

**【2021年度目標の達成状況に関する大学評価】（自己点検評価委員会）**

年度目標3件に対し概ね達成されており、自己点検・評価は適正である。2022年度も志願者数の増加につながる施策について引き続き検討してほしい。